

令和5年度学校評価の概要

<p>本年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業や家庭学習の充実により確かな学力を身に付けさせ、進路目標の実現を図る。 2 安城東高校生としての品格を重んじ、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。 3 学習活動、部活動、学校行事の三位一体となった学校教育活動の充実を図り、魅力ある学校作りを進める。また、地域への情報発信を積極的に行う。 4 職員間の新たな協力体制を構築し、在校時間の適正化を図り多忙化解消に努める。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・職員の防災意識の向上と激甚災害時の対応の確認 ・ 中学校、PTAとの連携の在り方の改変 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災避難訓練や講話等を通して、生徒や職員の防災意識を高める。 ・ 激甚災害時初動マニュアルを感染症対策も含めて見直しをする。 ・ オンラインを利用した連携システムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 激甚災害時初動マニュアルは感染症対策や乳児への対応なども含めて見直すことができた。 ・ オンライン（39メールやGoogle Form）を用いたPTA、中学校との連携システムは構築できつつある。さらなる活用が今後の課題である。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新教育課程と観点別学習評価への対応 ・ スクールエンジンを使用した正確な成績処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領を踏まえた授業展開と観点別学習評価がスムーズに行えるように環境を整える。 ・ スクールエンジンの使用方法を全職員に周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの学期で行った観点別評価を学年末の評価にどう結びつけるかについてのルール作りを行い周知することができた。 ・ スクールエンジンの使用方法について注意事項などを適切に連絡したために成績処理に支障を来すことはなかった。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入学共通テストに向けた校内体制の確立 ・ 各学年におけるキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切に情報収集を行い共有するとともに、調査書・ポートフォリオ作成のためのシステムを構築する。 ・ 第1、2学年では、進路行事、総合的な探究の時間を通して将来の明確な目標をもてるように支援する。 ・ 第3学年では、進路学習や面接を通して進路目標の実現に向けて努力する姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研究会、説明会へ参加し、新しい入試の情報を知り得ることができた。 ・ 1、2学年では大学の教員や企業の方からの講演等を通じて進路を考える機会を多く設けることができた。 ・ 3年生の担任には進路検討会等を通じて情報の共有を図り、進路指導に生かすことができた。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新しい生活様式」に対応した学校生活に関するルールなどの見直し ・ 学校いじめ防止基本方針に基く取組の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会やPTAと連携し、生徒や保護者の意見・考えを取り入れながら、服装や髪型など学校生活に関するルールなどを見直す。 ・ 定期的なアンケートの実施、ホームルーム活動などで、生徒がいじめ問題について主体的に考える機会を設け、未然防止を図る。 ・ 職員間での情報共有を積極的に行い、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校則の見直しは今年度も継続し、さわやかSelectionなどを実施、電動キックボードについては市民権を得られていないと判断して禁止した。 ・ 心のアンケートやクラッシャーなどの書き込みからいじめ案件を積極的に探して対応した。 ・ 新しい制服の製作メーカーを決定して、生徒・保護者の意見を聞きながら制服検討を本格化させた。
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常清掃の徹底 ・ 相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校体制での清掃活動の充実を図る。そのための清掃道具の整備を適切に行う。 ・ 担任会、学年会、学年主任会等を通して、問題を抱える生徒の早期発見と早期対応を図る。 ・ 養護教諭、相談係、SCの連携を図るため相互の連絡を密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動に全校で取り組み、清掃状況は概ね良好である。清掃道具の整備については調整を続けていく。 ・ 健康観察や保健室利用状況、担任会や学年会等の情報をもとに、対象生徒への対応を図ることができた。 ・ 担任、養護教諭、SC、相談係がしつかり連携をとることができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実 ・部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生徒会通信の発行や議会の開催等を通じ、生徒会活動に対する全校生徒の参加意識を高める。 ・ボランティア活動などの社会貢献活動を積極的に推進する。 ・安全な環境のもと、時間を有効活用し、効率の良い活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部発案の元、生徒の学校生活を豊かなものとするため挨拶キャンペーンを実施し、新たにユネスコ募金活動を実施し大変充実した活動を行うことができた。 ・部活動計画の提出をとりまとめ活動時間等について指導助言を行うことができた。
ユネスコ・国際教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育の充実 ・ユネスコスクールとしての活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪豪団の派遣、訪日団の受け入れ、異文化理解セミナー、海外学習報告会等を通して、生徒の国際理解を促す。 ・部活動や生徒会と連携し、ボランティア活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校との4年ぶりの対面での交流を通して、関わる生徒全てが大きな気づきを得られる機会を提供できた。セミナーでは、受講側としてだけでなく、発表者、運営としても生徒が大いに活躍した。 ・ボランティアは部活動を中心に実施した。
図書情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の適切な管理 ・校内ICT機器のとりまとめと学校の情報の一元化 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な蔵書管理と図書館を利用したくなるような館内整備を行う。 ・ICT機器が効果的に活用できるように管理し、校内支援システムを用いて情報を一元管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース上の管理は例年通り進めることができているが、新規書籍を一部購入できず、利用したくなるような環境を整備できなかった。 ・学校全体として積極的にICT機器を活用できる体制を整えることができた。 ・校務支援システムで情報を一元化できるものは一元化したが、各種IDの管理の一元化をしていきたい。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・安城東高生としての生活の基礎・基本の確立 ・適切なコース選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣及び学習習慣を確立させるため、担任面談等を通じて生徒の状況把握を確実にを行う。 ・コース選択に関する保護者・生徒向けの説明会等の実施や、総合的な探究（GLS）を通じて、科目選択に資する進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談や毎日課している課題などで、生活習慣や学習習慣は身に付いてきた。 ・学年全体に配布しているプリントを通じての進路情報を提供し、それを利用して、生徒が主体的に自らの進路について考えることができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の諸活動の中心であるという自覚 ・進路目標の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。 ・主体的に学習に取り組めるよう工夫を凝らす。 ・総合的な探究（GLS）や出前講義、大学研究等を通して進路について理解を深めることで、進路目標を明確化させ、学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、生徒が自主的に企画立案して行動する様子が見られた。 ・数学や国語の希望制課外や国語、英語の学習プリント配付など、学習機会を提供した。 ・様々な機会を通じて進路情報を提供し、生徒が主体的に自らの進路について考えることができた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年の自覚をもたせるとともに社会人としての資質の育成 ・進路目標の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分前登校を徹底し、遅刻を減少させる。 ・進路だよりや面接指導などを通して進路目標について考えさせ、学習意欲を高める。また、主体的に学習に取り組み、努力の継続を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数は昨年度よりも減少傾向である。 ・進路情報を学年集会や進路だよりなどで発信し、生徒が主体的に進路について考えることができた。